

第7回清水町みらい会議要旨

○開催日 令和3年6月2日(水)

○会場 清水町役場4階 第1会議室

○出席者(委員)

- ・岩崎 清悟 座長 (静岡ガス株式会社 特別顧問)
- ・植田 勝智 委員 (ファルマバレーセンター センター長)
- ・川村結里子 委員 (株式会社結屋 代表取締役)
- ・鈴木 誠一 委員 (株式会社エステック 代表取締役)
- ・長倉 一正 委員 (有限会社長倉書店 代表取締役)
- ・三船美也子 委員 (一般社団法人日本親子体操協会 理事)

○欠席者(委員)

- ・中山 勝 副座長 (一般財団法人企業経営研究所 理事長)
- ・矢嶋 敏朗 委員 (日本大学国際関係学部 国際総合政策学科 准教授)

清水町における移住促進に向けた官民連携の取組について検討を行った。

〔討論の概要〕

- ・ 移住促進に熱心な他市町に比べ、清水町からの情報発信が少ない。
- ・ 移住を促すターゲットを絞り込んでアプローチすべき。
- ・ 新幹線三島駅とのアクセス不便をどう克服するか。
- ・ 強みである大型ショッピングセンターの活用を図るべき。
- ・ 教育や文化の底上げは、不可欠の要件。

1 情報発信について

(1) HPの運営について

- ・ 町が掲載している内容は、補助金や町のPR動画などがあるだけで、移住を模索している人が欲しい情報が見当たらない。HPを見る人からすると、移住定住に力を入れていないという印象を与えかねない。
- ・ 町には移住定住専用のサイトがないと思うが、最低限準備しなければならない。

(2) ネット検索について

- ・ネット検索において、検索画面のトップに出てくれば閲覧回数が増えるのが当たり前になっている。上位に清水町が出てくるように工夫しなければならない。
- ・ネット検索の上位に名前を出すには費用が掛かるが、月5万円ほどの経費でHPの管理のほか、グーグル検索画面の上から3番目までに入るようにできている。移住希望者はネット検索で情報収集をすることに長けているため、そういった戦略も必要ではないか。

(3) 発信の内容について

- ・移住のターゲットとする方が欲しい情報を、その方たちの目線で用意することが必要。例えば、テレワーク可能な大企業の方や子育て中の働き世代の方をターゲットとするならば、どんな暮らし方でどんな働き方ができるのかという情報提供が必要。
- ・補助金だけでなく、商業施設や医療など生活環境の情報が欲しい。
- ・町に移住してきた方に協力を依頼し、そういった方の声を発信すると良い。

(4) 発信の方法について

- ・Youtubeでの検索数も伸びており、それらの動画では移住後の失敗談等を取り上げている内容もある。教訓とし、そのような失敗がないことをPRするのも良い。また、動画的なPRも必要。
- ・県が運営する東京有楽町のオフィス（静岡県移住相談センター）を活用する。ただ清水町に来てくださいという内容ではなく、より具体的に魅力ある情報発信が必要。

2 移住促進を図るターゲットについて

- ・ターゲットを絞ってアプローチすることが必要。
- ・三島駅からのアクセス不便から通勤を前提とした完全な移住は難しいと考えられることから、リモートワーク等による二拠点居住（※1）をターゲットにしてはどうか。
- ・昔から、今でいうワーケーション（※2）のように伊豆に滞在していた文豪が多くいるなど、地方で仕事をしやすい業種がある。また、フルタイムで働いている方は東京から離れるのが難しいと聞かすが、週3で働けばいいという方々も多くいるはずで、そういった方は地方に行く可能性がある。そういったところを調査してターゲットを絞るのはどうか。
- ・リモートワークが実施可能な業種等を調べると良いのではないか。クリエイ

ーターや企画部門が多いように感じる。

3 町の環境について

(1) 交通

- ・清水町のデメリットは鉄道駅がないことだが、一方で、他市町に比べ駐車場を設ける場所はある。コロナ禍で鉄道より車の利用者が多くなっているが、国道1号もあり、高速道路へのアクセスも良い。
- ・都心から県東部に公共交通機関で移動するにあたり熱海で一度途切れてしまうことからか、北関東の等距離の市町に比べ交通の便が悪いという声もある。
- ・新幹線のひかりが停まることは、東京圏の方からは大きなメリットになると思う。そのため、近隣市町と連携して三島停車本数の増加を要望してほしい。
- ・三島駅に着いた後の移動という点で駅に隣接する市町が有利になる。三島駅とのアクセスが課題。(以前の会議で、サントムーンをハブターミナルとするバスネットワークの構築という提案もあり)

(2) 教育・子育て

- ・環境が良く、医療機関も充実しているのは良い点なので、あとは教育。家庭を持つ働き世代の方の話題は子供の教育についてであって、どういう教育が受けられるのかということに強い関心を持っている。清水町ならではの教育面で突出したものをアピールできることが大切。
- ・中学校までのところでいかに尖った教育ができるかどうか。尖った教育がなければ、移住希望者は魅力を感じない。
- ・小さな公園は多くあるが、そこに行けばすべて揃っている駐車場を完備した公園というのが町内にはないように思う。
- ・イベントが少なく感じる。卸団地でクリテリウム大会を行っていたが、それのみである。月に1回など定期的に、歩行者天国等にしてイベントを開催し、子供を遊ばせることができれば良い。

(3) 生活環境

- ・実際に移住した方から県東部には商業施設が少ないとの声があるが、本町にはサントムーン柿田川があるのは強み。
- ・若者夫婦が引っ越す際に必要なものとしてショッピングモールを上げている。その点において、近隣市町と比べて有利なのではないか。
- ・環境もよくて住みやすく、町民アンケートにおいても、それらが高得点である町ということであればそれらをもっとアピールすると良い。

(4) 文化

- ・首都圏においては、作家によるセミナーやトークイベントが日常的に開催され、人が集まるような環境がある。実際、近隣市町には作家が居住しており、そういう方を巻き込んだセミナーなどを開くことも良い。
- ・昨年、図書館と書店が連携協定している。図書館を充実させることは教育レベル・文化レベルを上げることにつながるため、民間の書店をうまく活用してほしい。
- ・図書館にはたくさんの知識を得たいと考える人たちが集まると思う。本を貸し出す機能だけでなく、コンサートや絵画展などをやったらどうか。お金をかけずとも町の文化行政としてこういった取り組みがあると良い。

4 移住促進に係る広域連携について

- ・住民は、生活において市町の行政区分など関係なく、ある程度のエリアで行政枠を超えて生活しているため、住民が活動する範囲の市町と連携してPRしていくと良い。
- ・三島駅を起点とするような近隣市町との連携をして、一緒に移住に関するイベントを実施してはどうか。
- ・人が住む場所の魅力を町内ですべて賄うのは難しい。清水町だけでなく、周辺市町の環境も含めてPRしてはどうか。

5 移住相談窓口等について

- ・移住相談においては、オンライン上の相談を実施したほうが良い。
- ・相談窓口が平日のみ開設とされがちだが、移住希望者は平日仕事をしているため、その時点で、自分たちのことを考えてくれないと感じてしまう。WEBを活用し、ターゲットとする人たちが利用できる時間や曜日を広げることが必要。
- ・転入出の手続きに時間がとられるのが嫌だという方もいる。オンラインでの手続きやワンストップ窓口、代行サービスなどにより煩雑な手続きがなくなると良い。

6 移住後の環境整備について

- ・移住希望者は、どこでテレワークをするのかどこに移住すればよいのか(物件)という問題から始まる。シェアハウスやシェアオフィスの受け皿の準備があるだけでも移住促進になる。
- ・町で物件を用意し、お試しリモートワークを実施したらどうか。その後、実際に体験してもらった方から意見をいただき、併せて情報発信もお願いすると効果がある。実施場所は、例えば、柿田川や富士山を望めるような、インパクトの強い場所が良い。

・住居においても、安心してテレワークができるなどインターネット環境が整っているというのも良いPRになるため、ネット環境整備に対する補助などがあると良い。東京圏からの移住だけでなく県東部での住まい探しにおいても有利になる。

・三島駅北側から裾野ウーブンシティへの沿線開発や三島駅南側に再開発の計画があり、三島駅周辺地域の魅力が高まる一方で、清水町への移住希望が減少する可能性があるため、危機感を持って移住促進策を進めてほしい。

※1 二拠点居住…二地域居住、2つの地域を拠点として居住すること

※2 ワークेशन…ワーク（労働）とバケーション（休暇）を組み合わせた造語で、観光地等でテレワークを活用し、働きながら休暇を取る過ごし方